

# SEPG/SQA一体型での SPI推進体制の提案

～SEPGとSQAを同じ人がやってみませんか～

オムロン株式会社

コントロール機器統括事業部

濱崎 治

# 内容

- ◆背景：SEPGとSQAを分けたくない
- ◆課題：SEPG/SQAの兼務は難しい
- ◆疑問：SQAは開発チームの敵？迷惑？
- ◆解答：アドバイス主体のSQA活動
- ◆仕組：改善のフレームワーク
- ◆事例：ピアレビュー強化の取り組み
- ◆効果：効果的かつ効率的改善の推進

# 背景： SEPGとSQAを分けたくない

実状

50人程度の小規模組織では  
SEPG,SQA合わせて二人程度  
(SEPG,SQAそれぞれに2%として)

問題1

改善施策の検討時、  
SEPG一人では  
視点や発想が限られ独断的に

問題2

負荷変動が大きくなるため、  
SQA一人では  
複数プロジェクトに対応困難

小規模組織以外でも、組織数を増やしたくないなど、  
SEPGとSQAを分けたくない理由はありそう

# 課題:

## SEPGとSQAの兼務は難しい

SEPGの責務

改善されたプロセスの  
考案と導入

SQAの責務

プロジェクトの  
プロセス監査

参考文献

ソフトウェアプロセス成熟度の改善  
Watts S. Humphrey 著

プロジェクトの協力が必要

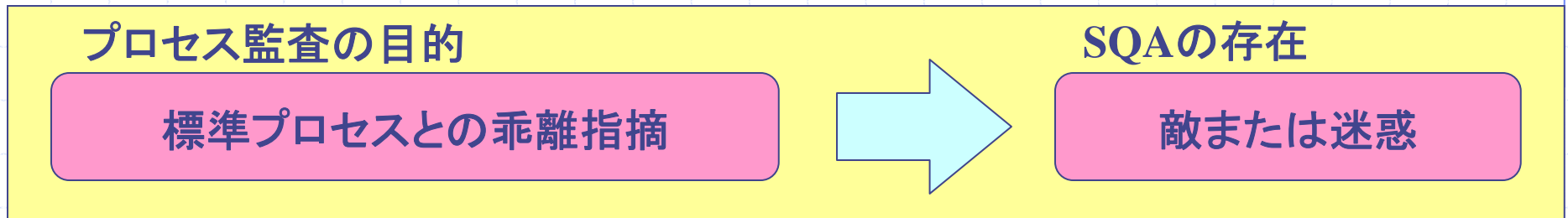
**兼務は困難**

プロジェクトにとっては  
敵または迷惑

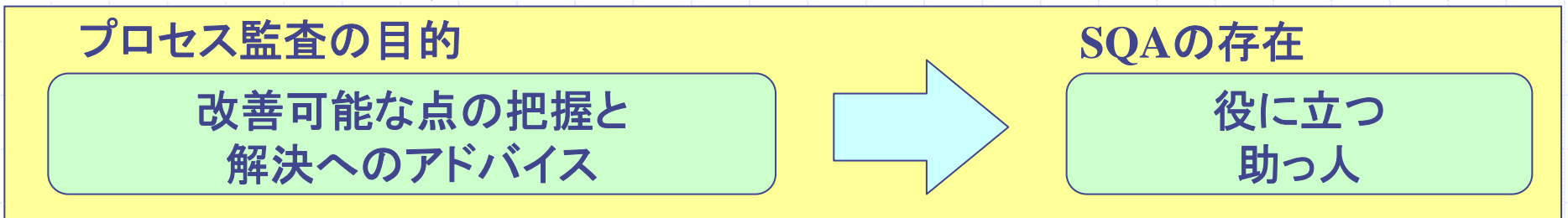
# 疑問：

## SQAは開発チームの敵？迷惑？

これまでの見方…



しかし、こうでも良いはず…



CMIMIにも以下の記述 (PPQA SP2.1-1 Sub1)

- ・可能な場合は、適切な要員メンバと共に各非遵守を解決する

# 解答： アドバイスの主体のSQA活動

プロジェクト  
開始時に実施

管理やエンジニアリングの  
各プロセスの実装方法をアドバイスし、  
チームでの手順化を支援

定期的に実施

チームが決めた手順の実施状況を監査し、  
結果を開発チームと共有

非遵守事項が  
あった場合

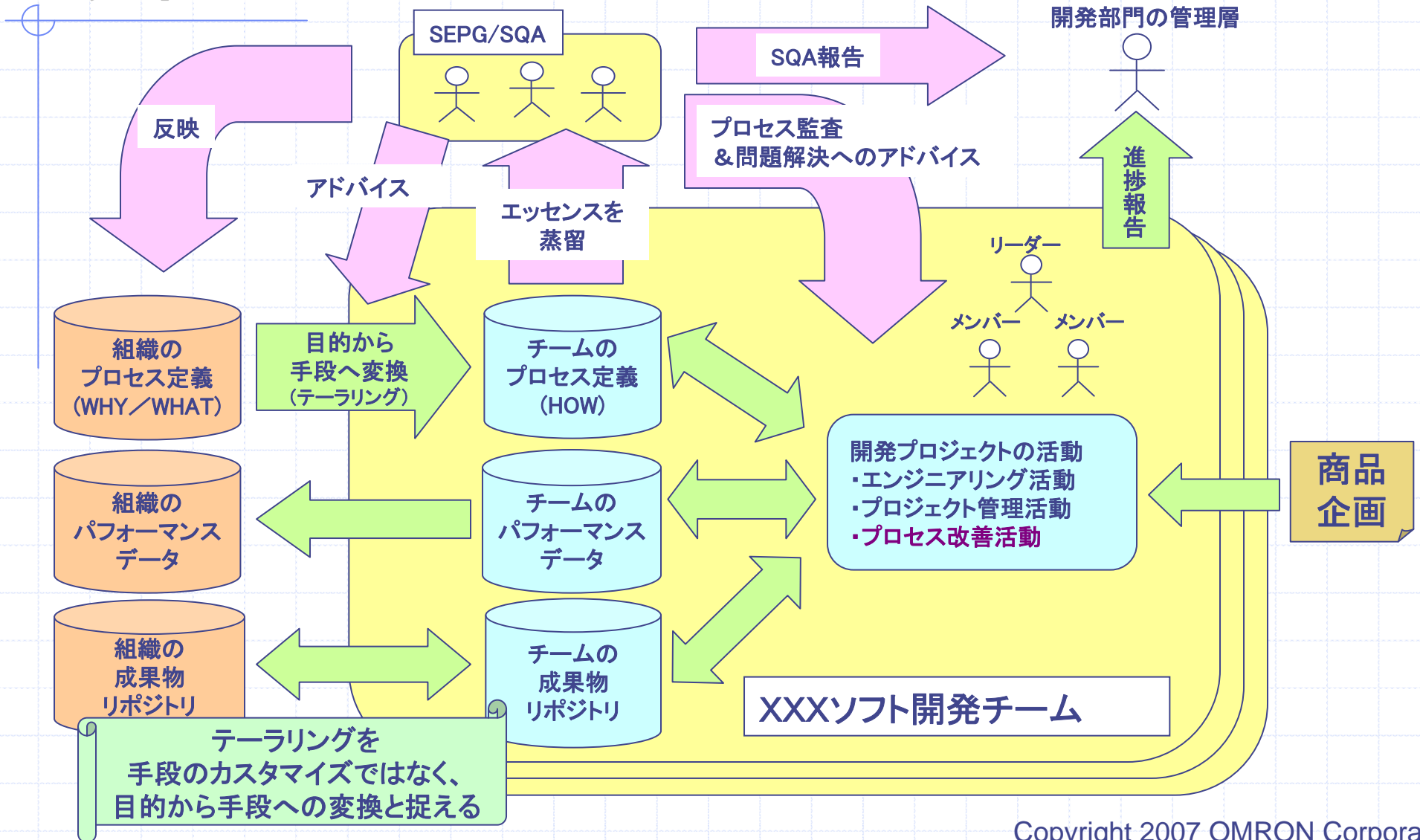
問題の解決方法をアドバイス  
(チームが決めた手順の変更も視野に入れて)

**重要**

「現場、現実、現物」を見た上で、「実際のプロジェクトで  
実施されていることに基づいた知見」によりアドバイスする

**重要**

# 仕組： 改善のフレームワーク



# 事例： ピアレビュー強化の取り組み

カバレッジ100%と指摘事項フォロー100%を改善施策として提案

プロジェクト開始時に、レビューの抜け漏れを無くすため、  
成果物管理方法、レビュー実施記録方法をプロジェクトメンバーと検討

定期的な監査を実施。成果物管理、レビュー実施記録の状況や、  
レビュー実施状況、指摘事項のフォロー状況をプロジェクトに報告

上手く出来ない場合、適宜アドバイス

レビュー実施状況や指摘事項フォロー状況が客観的に評価できる状態になった

カバレッジ100%と指摘事項フォロー100%が実施される状態になった



# 効果： 効率的かつ効果的改善の推進

## 効果1

開発チームに改善提案を理解してもらいやすい

## 効果2

開発チームにとって、SEPG,SQA個別に  
コミュニケーションする必要がなく効率的

## 効果3

改善担当者にとって、効率的  
改善されたプロセスの実行支援 = アドバイス  
改善機会を捉える = プロセス監査

## 効果4

SQA活動を通じ、開発チーム間での知識移転が促進

皆さんも、  
SEPGとSQAを区別せず  
同じ人でやってみませんか？